

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	44	大学等名	愛媛大学
テーマ	テーマⅢ（高大接続）		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、「教育コーディネーター研修会」のテーマを「高大接続・入試改革」と定めて入試改革を推進し、入試における「調査書」や開発した課題研究のルーブリック評価表を活用した「活動報告書」の積極的活用など、高大接続改革を踏まえた入学者選抜の方針を策定したことは、選定テーマにとどまらない取組が行われたことの表れである。また、社会が求める汎用的能力は高校生段階からの育成が効果的であるという考えから、附属高校の課題研究支援、高校生を高大接続科目等履修生として受け入れる制度の創設、ICT教材の開発・普及などに取り組み、卒業時に身に付けていることが期待される汎用的能力として制定した「愛大学生コンピテンシー」の習得に寄与したこと、さらに、大学教員による附属高校等の課題研究指導が、大学授業におけるアクティブ・ラーニング導入の拡大につながったことに加え、高校と協働による課題研究を評価するルーブリックの開発が、大学における評価方法を改善する一つの契機になったことも高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、テーマ別評価の観点に基づき「高大接続の強化」及び「高校等との意見交換」が着実に進捗され、「大学レベルの教育の提供」は、提供科目数、種類共に着実に拡大していることは評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、「高大接続推進室」、「大学教育再生加速プログラム高大接続推進委員会」及び3つのワーキンググループという組織的な体制で事業を推進してきたが、補助期間終了を前にアドミッションセンター構成員を高大接続推進室の室員に加えるという、体制強化のための見直しが行われた。全学的なFD推進の場である「教育コーディネーター研修会」には教育コーディネーターに加えて関係する事務職員も参加しており、高大接続・入試改革の検討に資するものとなっている。また、附属高校との高大連携プログラム、「課題研究」、P-AP科目を受講した生徒に対するアンケート、高校教員へのヒアリング等に基づいて取組改善を実施してきたことで、高校生の受講可能科目数及び受講可能者数が増大したことは評価できる。さらに、補助期間終了後も高大接続に関する専門人材を2名体制とし、高大接続科目等履修生の受入れに係る授業料等を引き続き無料としたことから、今後も継続的かつ発展的な事業の実施ができるものと評価できる。

事業成果の普及については、高大接続科目の履修を高校において「学校外における学修の単位」として認定できる仕組みは、当該大学の附属高校のみで実施されており、他の高校への波及を図っていること、また、開発した課題研究ルーブリックを課題研究の質の向上へと効果的に結びつけるために、「課題研究を始める段階」「課題研究の中間発表等の途中段階」「課題研究の最終発表段階」の3つの段階で気を付けたいポイント及びルーブリック活用アイデアを記した「ルーブリック評価活用マニュアル」を作成し、報告会等の機会に積極的に発表・配布するとともに、Webサイトへの掲載を通して普及を図ったことは評価できる。